

普及活動情勢報告（令和6年11月分）

高吾農業改良普及所

「秋葉まつりの里未来会議」視察研修 ～新たな活動展開に向けて～



新規事業の展開について研修

仁淀川町別枝地区で茶園維持などの集落活動に取り組んでいる「秋葉まつりの里未来会議」が、10月29～30日に関係者10名で視察研修を行いました。今回の研修は、昨年普及所が条件不利地で元気に活動している事例の調査を提案したことを受けて実施したもので、活動展開に向けた伴走支援として参加しました。

研修先は徳島県の古民家事業と葉っぱビジネスで、別枝地区と同じ中山間地域で高齢化率など厳しい条件下で先進的に取り組んでいる事例でした。古民家事業では、中山間の古民家の宿に来てもらうことを目的に古民家の魅力やイベント情報を発信して知名度を上げていました。また葉っぱビジネスでは、大寒波で基幹品目のミカンが途絶えたことをきっかけに、新規事業を展開するために市場調査や販路開拓を行ったことで市場の60%以上を占めるまでに成長していました。

普及所は、山間地の不利な条件を逆手に取り組んでいる今回の事例を、別枝地区の茶園維持に向けた新たな活動展開の戦略として活用できるよう支援していきます。

ユズの成木はどんな姿？ ～仁淀川町地域おこし協力隊 安芸地区ユズ視察～



ユズ出荷場での様子

11月14日、仁淀川町の地域おこし協力隊員2名が、JA高知県柚子処理加工施設と安芸地区の農家ほ場の視察を行いました。

地域おこし協力隊員2名は今年7月に着任してから、仁淀川町の農業ミッションとしてお茶の生産や補完品目のユズの生産に従事しています。普及所は、ユズの栽培や出荷について学んでもらうため、今回の視察を企画しました。

視察先では、地域おこし協力隊からはユズの規格や病気に関する質問をして品質について学んでいました。また、ユズの搾汁の様子や収穫前の樹の状態を見て驚いた様子で、「ユズの成木のイメージができた」といった声が聞かれました。

普及所は、今後も地域おこし協力隊のユズの栽培技術習得に向けて、支援していきます。

日高村トマトの認知度向上に向けて ～とさのさとで販売促進イベントを実施～



イベントの様子

11月16日、とさのさとで生産者3名とともにトマトの販売促進イベントを実施し、シュガートマトの規格外品を中心に販売しました。

生産者は消費者に規格外品の説明を行い、普及所は消費者に認知度調査を実施しました。県民91名中24名がシュガートマトについて知らないと回答しており、「シュガートマトを食べてみたい」といった声が聞かれました。その他にも「日高村がトマト産地と知らなかった。」という声（県民93名中4名）もありました。

普及所は今後もトマトの販売促進活動など認知度向上に向けた取り組みを支援していきます。